

【日本側コーディネーター及び拠点機関名】

日本側拠点機関名	北海道大学アイヌ・先住民研究センター
日本側コーディネーター所属・氏名	アイヌ・先住民研究センター・加藤 博文
研究交流課題名	北方圏における人類生態史総合研究拠点
相手国及び拠点機関名	カナダ（アルバータ大学） 英国（アバディーン大学）

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】

人類は、生理学的に熱帯型の生物であるにも関わらず、既に4万年前には北緯70度の北極圏にまで到達した。その動きは解剖学的現代人の出現と拡散の動きと連動する。250万年間のホモ属の人類史において農耕出現以降の歴史は、わずか1万間に過ぎず、その大半は狩猟採集民の歴史であった。狩猟採集民社会の人類史の解明は、すなわち我々現代人の進化的位置付けを解明することになる。しかし、従来人類史は中緯度の国家史・文明史中心の叙述であり、狩猟採集社会は、その初源的生活様式としての位置付けにあまんじてきた。

北海道大学を中心とした研究チームでは、2011年からアルバータ大学、アバディーン大学などとの間で北方圏に展開する狩猟採集民社会の環境適応行動の特性とその独自の歴史の変遷過程を解明する目的で考古学、古環境学、分子生物学、人類学などの領域横断型のプロジェクトを組織、スタートさせた。

本事業では、北方圏の狩猟採集民の人類史の中でも、北海道島周辺の変動する自然環境とその中で営まれた人類環境史の独自性と多様性を解明していく。本研究の中核には北海道をフィールドとした複数国の研究者、若手研究者が参加する国際フィールドスクールを企画実施し、中核的研究拠点の役割を果たす3大学の施設を活用し、単独の大学機関ではカバーできない研究手法や研修制度を国際共同として実施していく。特に1) 国際フィールドスクールでは、異領域の研究手法の統合と研修機会の提供、研究者交流の場を提供する。2) 国際セミナーにおいては、最先端の調査研究手法と研究機材の使用法の習得の機会を提供する。3) これら国際共同研究を通じて、若手研究者の研究機関を超えた指導体制、共同研究の枠組みを構築する。

【研究交流計画の概要】

共同研究：

本研究は、共に北方圏の人類環境史に関する研究蓄積を有するアルバータ大学（カナダ）、アバディーン大学（英国）、北海道大学が中核となり、北方圏に展開した先史狩猟採集民文化の独自性や多様性を検討するために次の研究を実施展開する。1) 長期的な歴史的連続性を有する北方圏の狩猟採集民文化の理論的基盤の構築。2) アバディーン大学の有する北極圏、アルバータ大学の有するシベリア圏、北海道大学の有するシベリア、北海道、サハリンの狩猟採集民文化史の研究資料、アイヌ・先住民研究資料の共有化をはかる。

セミナー：

各大学において本事業に参画する各領域の研究者による1) 考古学領域、2) 生物人類学領域、3) 分子遺伝学領域、4) 古生態学領域、5) 先住民研究領域の若手研究者や大学院生を対象としたセミナーを定期的に関催するほか、最新の野外調査分析機器の研究への活用方法の共同実習を企画実施する。各大学において本事業参加メンバーの教員による交換講義とゼミナールを実施し、単独の大学枠を超えた国際共通教育プログラムの構築をめざす。

研究者交流：

上記の共同研究やセミナー等の機会を中心に、1) 本事業に参加する各国の研究者が異なる大学研究機関において研究に従事し、隣接科学や共通の研究課題を有する研究者間の交流をはかる機会を提供する。また博士研究員や大学院生など若手研究者に大学間の相互訪問の機会を提供し、共同研究や研究成果の共同報告の機会を提供する。

[実施体制概念図]

